

令和5年度 第2回 教育研究所運営に関する懇話会 議事録

- ◆ 日 時 令和6年1月12日（金）10：00～11：30
- ◆ 会 場 教育研究所 第2研修室（対面、オンライン同時開催）
- ◆ 出席者
 - 座長 森 昭夫 （鴨居小学校校長）オンライン
 - 副座長 前島 光 （坂本中学校校長）
 - 運営委員 米持 正伸 （横須賀総合高等学校校長）欠席
 - 〃 山田 伊久男 （荻野小学校校長）オンライン
 - 〃 松山 雅彦 （北下浦中学校校長）
 - 〃 鈴木 史洋 （教育指導課課長）欠席
 - 教育研究所職員 梅谷 尚子 （教育研究所所長）
 - 〃 矢本 歩 （教育情報担当課長）
 - 〃 白井 宏一 （主査指導主事）欠席
 - 〃 田山 雅也 （主査指導主事：研修・調査研究担当）
 - 〃 伊東 誠司 （主査指導主事：研修・調査研究担当）
 - 〃 濱田 広治 （係長：管理運営係）
 - 〃 新谷 美紀 （主査指導主事：ICT活用進担当）
 - 〃 三ツ堀 幸正 （主査：ICT環境整備担当）
 - 他 指導主事5名
- ◆ 傍聴者 0名
- ◆ 次 第 （司会：教育研究所 主査指導主事 伊東、記録：会計年度職員 棚橋）
 1. 開会
 2. 所長・担当課長あいさつ
 3. 議事進行上の確認事項
傍聴に関する確認
 4. 議事
 - (1) 令和5年度 教育研究所 事業報告
 - ① 令和5年度教育研究所の基本方針・重点・・・（梅谷・矢本）
 - ② 研修・調査研究担当事業について・・・（田山）

- ③ 管理運営係事業について・・・・・・・・・・(濱田)
- ④ ICT 活用推進担当事業について・・・・・・・・(新谷)
- ⑤ ICT 環境整備担当事業について・・・・・・・・(三ツ堀)

(2) 今後に向けて

- 5. 連絡
- 6. 閉会

[資料]

- 1. 第2回懇話会次第
- 2. 教育研究所運営に関する懇話会構成員名簿
- 3. 教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領
- 4. 令和5年度 要覧「令和5年度 教育研究所の運営の基本方針・重点」
- 5. 令和5年度教育研究所成果と課題
- 6. 教育研究所諸事業に関する意見用紙

◆ 議事録

- 1. 開会 (進行：主査指導主事 伊東)
- 2. 教育研究所長・教育情報担当課長あいさつ
- 3. 議事進行上の確認事項 (進行：森座長)
教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領
傍聴者0名
- 4. 議事：令和5年度教育研究所事業報告についての説明及び質疑
 - ① 令和5年度教育研究所の基本方針・重点 梅谷・矢本
 - ② 研修・調査研究担当事業について 田山
 - ③ 管理運営係事業について 濱田
 - ④ ICT 活用推進担当事業について 新谷
 - ⑤ ICT 環境整備担当事業について 三ツ堀
 - ⑥ 質問・意見等

4. ⑥「質問・意見等」

森座長

事業報告について一括して質疑応答に移ります。何かあれば挙手またはチャットをお願い致します。

伊東主査

では前島先生にご発言いただきますので、前島先生よろしく申し上げます。

前島校長

三ツ堀主査から話があった、1人1台端末修繕についての部分です。中学校・ろう学校で配布している端末については保守パックでの対応。小学校・養護学校に配布してある端末については修繕費で対応ということですが、なぜ小学校と中学校で対応が違うのか、理由があれば教えてください。

三ツ堀主査

中学校の保守パックについては、端末の使用頻度等を考慮しまして、保守パックを付帯しています。保守パックの内容としましては、自然故障への対応です。メーカーでの標準保障期間は、通常だと1年ですが、5年間に延ばした保守パックの内容にしています。また5年間で、一度だけバッテリーの交換をするサービスも付帯しています。その部分を中学校・ろう学校では対応しています。小学校と中学校の方は修繕費での対応という形になります。

前島校長

はい。わかりました。そのことでこの間、バッテリーの交換をしてたんですね。ありがとうございます。

森座長

他質問等いかがでしょうか。

伊東主査

森先生の音声途切れてしまうので、こちらのほうで進めたいと思います。ご発言、ある方いらっしゃいますでしょうか。

森座長

端末の更新があると聞いているのですが、その時期が分かったら教えてください。

さい。年末に横須賀市から児童生徒の端末を持ち帰る案内が来たかと思うのですが、承諾書を取っていない学年についての事をお願いします。

三ツ堀主査

端末の更新の時期についてお答えさせていただきます。国の補助金の方向性が示されまして、国の方向性としては、令和6年度以降は補助金で出せるという回答をしています。横須賀市の更新の計画は、端末を導入したのが、令和2年度・令和3年度で調達導入を行いました。その端末を5年間使い、令和7年度と令和8年度にかけて、端末の更改に関する予算等要求し、更新できればと考えています。端末の更改については、国の動向を踏まえ、補助金等を有効に活用しながら、こういったタイミングで、更新していくとよいのか見当進めているところです。令和6年度については、端末の更新はない状況です。以上です。

新谷主査

私からは、端末持ち帰りの承諾書について、お答えいたします。昨年末、国から「臨時休校に伴う児童生徒への家庭での学びの継続」という内容で、端末の持ち帰りに進んで、取り組んでください、という内容の文書を教育指導課と連名で発信しました。それに関わって、教育情報担当としては、学校で承諾書については、取っていただく必要があると感じています。もし、まだ取っていない学年があれば、学校の方針と照らし合わせて、毎年度取るようにする、または卒業までその取った内容が継続していくようにするなど、各学校の方針に基づいて承諾書は必ず取っていただきたいと思います。ご協力をお願いします。

森座長

承諾書の件ですが、学校毎に方針が違うということはあるのですが、4年生以上の転入生や、学校家庭環境が変わったことについての把握を私達はしていないので、全校の取り直しの必要があるのかなと思っています。3年生以下は取っていない事。転入した子も取っていない場合があります。また、家庭環境が変わった子についても取っていないので、更にもう一度取り直すような指示が教育委員会からあると助かります。

新谷主査

はい、ありがとうございます。そういった状況があるということ把握できました。改めて承諾書の依頼の文書を各学校には発信していきたいと思います。

森座長

それでは、続きまして議題2。「今後に向けて」に移ります。今後の教育研究所の諸事業についての意見要望について、今年度の懇話会はこれが最後になりますので、皆さまよりいただければと思います。まず前島先生お願いします。

前島校長

坂本中学校前島です。成果と課題のご説明ありがとうございました。様々な部分で、特に研修については多様なニーズを捉えて研修を準備していただいていると感じています。臨時的任用等職員の教師に対しても、幅広く研修をやっていただいていることに感謝をしています。管理職の研修についても、意見を聞いていただきながら、内容の良い研修をしていただいたと思っています。

現在の研修体系では、再任用の方に対する研修は、特に準備されていないと思っています。再任用の方は、自分たちが今までやってきた仕事の仕方と、現代の仕事の仕方や、世の中が変わってきている中で、教師を続けていく以上、こちらが変わっていかなくてはいけない・アップデートしていかなくてはいけないところが、すごくあるのではないかと感じています。再任用をするにあたって、時代が大きく変わる中で、心掛けないといけないことという話は、どこかでしていただくと非常にありがたいです。年代が若い方は、最新の教育情報や ICTなどを学校の授業などで使っています。しかし、再任用の方はどちらかというと大学で教わった内容のまま30年～40年働いてきています。自分でアップデートしていらっしゃる方もいるのですが、なかにはそうでもない方もいます。認識の違いから、トラブルやいろいろな事故事案が発生することも考えられるのでぜひそのような内容もフォローをしていただけたらありがたいなと思っています。

そして、「成果と課題」というところでお話をいただいたのですが、教育委員会は、様々なデータを取っていると思います。この多くのデータを横の繋がりでも活用していくと良いのか、それぞれの課で持っているデータを、課を超えてうまく生かしていけないのかなと聞いていて思いました。すごくもったいないなと思っています。例えば、教職員課が持っているストレスのチェックの内容については、研修など、いろいろなことつながりとして見れるのではないかと考えています。ビッグデータの使い方を、どこでやっていくのがいいのかなというのは委員会の方で考えていただきたいと思っています。今は、内閣府でも産業・大学・行政と繋げていくということが始まっていると思うので、何かそういった内容を横須賀市の近くにあるリソースを使って活用できないかなと思っています。横須賀の課題もそれで見えてくるものがあると思うので、成果を見るときにはやはり質的な内容とアンケート、あと量的なもの両方で見ることによって見えていくこともあると思います。変わらない内容をずっとやり続けることも大切だと思

ます。藤沢市では、同じ内容の調査してることもあります。このことによって変わらないことをやることによって見えてくる変化もあると思うので、すごくもったいないなと思っています。ぜひ、そういった取り組みも、研究所・市全体で共有していただいて、成果と課題を意味のあるものにしていくとすごく良いのではと聞いていて思いました。今後もよろしくお願いします。以上です。

森座長

では、小学校教育研究会会長山田先生お願いします。

山田校長

3つあります。まず理科のことです。子供たちが理科離れといわれるなかで、興味のある人たちがプラスアルファで授業ができるのはすごく魅力的だと思います。先生たちが面白いと感じることも、とても大事だと思います。理科は、専門の先生が行う教科という認識になりつつあります。その先生が学校から抜けた後どうするか、課題があるので、様々な先生方に興味を持ってもらうことも大事なのかなと思います。今も取り組まれていることを進めていただければと思います。

人材育成の点でいうと、横須賀総合高校の OJT の形が続けられていて、それは非常に有意義なのかと思います。少し気になるのは、経験年数が少ない先生方が学校の中での割合が多くなってきているということで、多くの研修を実施されていますが、前島校長からは、再任用の方についての研修の話がありました。私が気になるのは総括教諭の方です。現状として、総括教諭の方が次の教頭先生というところが難しい位置にあるわけですが、総括の先生は、きっと何か一つ秀でたものがあってそれを専門でうまくやって、グループリーダーになっています。その次のステップになると、先ほどお話あったように学校運営のことになります。自分たちはあまり関心をもってこなかったり、自分は苦手だと思っていたりすることも管理職は全てやらなくてはいけないので、そういうところの気付きについては、本来学校でやるべきかもしれません。しかし、なかなかうまくできていない現状があります。その総括の先生方にとって有効な研修ができればと思います。

ICT 支援員についてです。昨年度に比べて学校に来ていただく回数が減ってしまっていて、どういうふうに接点を持っていくか、学校からの ICT 支援員の方へのサポートが難しくなっています。1人1台端末の活用に関する課題をきちんと学校のなかで整理して支援員の方に聞くというよりは、支援員さんに来ていただいたところで聞く形になってしまい、支援員の方に対しても失礼だなという感じになってしまっているところがあります。ただ、支援員の方は、横の繋

がりでかなり情報を持っていらっしゃるところがあります。それをここでは支援員さんと研究所の方にちょっとコミュニケーションをとっていただいているみたいなのですが、なかなか学校では、他の中学校でやってるんですよと言われても、それを取り入れようというところまで行かないで、何となく話の中で終わってしまっていて、もったいないなという感じがします。

最後はホームページの事です。新しくなるということで非常に期待をしています。研究会でホームページを利用している研究会があると思うのですが、私の立場で言うと、研究会がみな同じようなスタンスでホームページに向き合っていくかというところではありません。過去からずっと蓄積されたものをきちんと残してる研究会もあれば、やっていたんだけど途中で途切れ気味になってしまっている研究会もあるような気がします。研究会のホームページの充実というところでもまたお力添えをいただけたらなというふうに思いました。前回お話ししたとき魅力的な研修のコンテンツだということでお伝えをしたのですが、それについても検討していただいております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。以上です。

森座長

ありがとうございました。続きまして、中学校教育研究会会長、松山先生お願いします。

松山校長

はい、よろしくお願いいたします。先ほど研修・調査研究担当事業に関して様々なご報告をいただきまして本当にありがとうございました。私もお聞きしながら、オンライン研修というものが根付いてきたなというところはすごく感じています。対面の良さとオンラインによる研修の良さというのがある程度現場の方でも切り分けられるようになってきたと思っています。そういう意味では、研修の内容や実施したいコンテンツによって、オンラインを取るという場面と対面を重視するという場面というのをしっかりと考えていろいろな形で取り組んでいただいているということに対して非常にありがたく思っています。やはり、学校は忙しい先生方も多いです。なかなか自分の学校を空けて、研修会場に行くことに対するハードルもだいぶ高くなってきているところがあります。ただ、私自身も今日は、対面でここに来て、お話を聞いて、お互いの意見を協議するところでは、対面の方が勝っているというのはもう当たり前のことだと思います。そういう点では、そのバランスを考えた研修の組み立てに引き続きご尽力をいただければと思います。あと、研究所の方から様々な研修の紹介をいただいております。私の方でも、比較的いろいろな自治体の研修などにも参加

をさせていただいているところがあります。市内の状況もありますが、もっと視野を広げて、県内他地区の状況などを知っていくことによって、横須賀の中では気づけなかったような視点を加えることができると思います。こういったところは、なかなか現場の先生方がすぐに参加できる状況ではないかもしれないのですが、引き続き紹介をしていただいで、ぜひ我々の視野を広げるということについてもお力を貸していただくとありがたいです。

私からの要望は4つあります。

まずは、先ほど山田校長先生からもお話があったリーダー層の研修についてです。この内容については、今の総括の先生方に対して、学校運営の魅力の発信っていうところが、我々ができてないということをも自分自身も反省しているところです。学校運営をしていくということは、多岐に渡る課題に対して、対応していく力を要求されることがあります。スペシャリストではなくて、ジェネラリストとしての、学校の見方です。こういった部分についての魅力を発信するような場面がないと、これから先のことを考えたときに、総括から教頭へという道がなかなか厳しくなってくると感じています。同時に、総括の研修については、アフターフォローの重要性についても、少し感じてるところがあります。研修の場では、「なるほど」「そうだな」と思われる方も多いと思うのですが、いざ学校に戻ってみると、その自分の感じたことなどを深めていく時間的余裕もなければ、その後どうですかというところが、なかなか問いかけていないかなと感じています。これは現場としても少し課題になっていると思います。ぜひ、アフターフォローというところについての研修の持ち方についても、私どもと検討していただければと思っています。

それから研修データベースのお話です。先ほどの研修履歴に基づく受講奨励というお話がありました。私事ですが、私が県の教育センターにいる頃から、この話題はずっと続けて課題になっていました。最近、ようやく形になったものの一つですが、実際に物を見てみると県立学校ベースで設定されているシステムなので、何か横須賀市とこの研修コースを受けた人が出てきて、それに対してどのように受講奨励をするかということについて、いま一つ横須賀市の管理職の方もわかってないところがあると思っています。そういった部分のフォローをしていただくと、もう少し有効に活用できるのかと思っています。引き続き御検討をお願いいたします。

次に教育コンテンツのことです。先ほどご回答もあったように教育コンテンツの発信については、とてもハードルが高いということは私も重々承知しています。ただ、先ほど来申し上げているように、優れた授業を見ることは先生方の財産になります。そういった意味ではいい授業を見るチャンスを失わせたくな

と思っています。教育研究所の事業とは違いますが、かつては小中教育課程の研究会で、小学校の授業を中学校の教員が見たり、中学校の授業を小学校の先生が見たりという場面が設定されていました。教育課程研究会についても、これから形を変えて進める見通しもあるということで、なかなか小中お互いに優れた授業を見合うというような場面が減ってきているような気がしてなりません。我々中学校の立場からすると、やはり小学校の子供たちが何を学んで、どのようなことに力をつけてきているのか、知ることはすごく重要性があると思います。多分小学校の方も同様かと思います。自分たちが育ててきた子供たちが中学校でどのような力を身につけているのか。そういう面を見合うチャンスが失われるのはとても残念だと思っていますので、こういったコンテンツ授業を通して、何かそこが突破口になるといいなと思っていますので、引き続きご検討の方をよろしくお願いいたします。

最後になりますけれども、個別に教育情報担当の方とお話したことがあるのですが、CBTの推進についてです。先ほどの成果・課題の中で国の動向も見ながら、今後も検討していくというようなお話をいただきましたが、やはり最初にCBTについてお話を聞いたときに、これから先の学校の働き方に関してもこのCBTは大きい突破口になると思っています。日々の先生方の、子供たちと指導した内容の理解度を測るという部分でいうと、CBTには優れた側面がたくさんあると思います。そういったところが先生方の授業のなかで無理なく簡単に使えるというシステムが構築されていくことは、働き方改革にも大きく役立つ部分だと思いますのでぜひ引き続き、この部分について検討していただいて、学校の先生が自分の単元テストのデータなどが簡単に活用できるような環境を整えていただけるととてもありがたいと思います。こちらの方もご検討の方よろしくお願いいたします。以上でございます。

森座長

では、私が最後に。本日事業報告と成果と課題をありがとうございました。いろいろ話題にありましたが、校内OJTがかなり厳しい状況にあります。人員が減ってきて難しいのかなと思っています。そのため、教育課程研究会について、今後検討するにともない、特に教科指導の部分で校内OJTについて少し研究所の方でも研修等を組んでいただければと思います。あと教職員課から情報としてありました部分休業が延長されることで本校も対象になる場合があります。対象者のお子さんが、小学校3年生まで部分休業をとった場合、研修免除期間がかなり長くなります。そのため、部分休業が明けたら、一気に多くの研修が押し寄せてくるということは、避けてほしいなと思うので、休業が開けたら急に中堅教諭研修まで受講する必要があるかなど、教職員課と連携しながら、研究所の研

修の方で組んでいただければと思います。

あと ICT に関することです。ICT 活用の学校間の差があることは、丸瀬先生から聞いています。先日城北小学校がフロンティア研究発表を行いました。そこで研修する人たちが非常に多かったです。やはりどのように chromebook を使って授業で活用していくかというところに興味を持たれているのだなと思いますので、城北小でやったような、研修を設定すると受講する先生が多いのかなと思います。鴨居小学校も結構使ってる方だとは言われたのですが、やはり、学校の中では使っているように見えるが他校から見るとそうでもないというところは見えますので、他の学校との情報など扱ってる状況を教えていただけたらなと思います。

最後に小学校で話題になりました。運動会で、個人の端末を使って音楽を流すという実態がありそれを何とか止めさせる方向で行ったところ、「個人のスマートフォンは、使ってはいけない」という情報は前からあったので、その条件を整理できたらよかったです。個人持ちの iPad についてまだ規定が、前のパソコンと同じようなことなので、教職員課に確認をしました。「iPad は電話ができないスマートフォンと同じ」ということで不祥事の原因になる可能性があるとのことでした。iPad を使う場合の規定や、これを守っていけば使用可能みたいなものを改めて作っていただければと思いますので、検討をお願いしたいです。iPad の使用については、不祥事防止に関する観点では教職員課、著作権という観点では教育指導課だと思いますので、連携を取りながら個人持ちの iPad を使う場合の、規約というか規定というのを、示していただければ助かります。どうもありがとうございました。私からは以上になります。それではこれで、協議を終了いたします。皆様ご協力ありがとうございました。